



**ポイント**

文(4)の They are happy with a few simple prejudices, a fact ~ がこの英文の山場です。先ず、a fact の前に which is が省略されていると考えます。which は何でも飾れるので、先行詞は前の文全部。(4)の解説にもそう書いておきました。でも、ここでもう1つの考え方を紹介しておきます。それは「添加」や「並置」と呼ばれる考え方です。既存の旧情報Aに、新情報Bをちょっと付け加えたい時に「A, B」の構造を取ることがある、というものです。例を挙げておきます。

- ・ Mr. Smith, Mike's father ( 同格 )
- ・ the milk, which was near the window ( 非制限用法の関係代名詞 )
- ・ Walking along the street, I met a friend of mine. ( 分詞構文 )

分詞構文が「添加」であるという発想が面白いよね！「道を歩いていた」という旧情報に「友達に会った」という新情報が付け加わったのが分詞構文だというわけです。これは名古屋高校の丸山先生や東洋学園大の大西先生の発想です。

もう1つのポイントは「非制限用法の関係代名詞」の訳出です。非制限用法の関係代名詞には「 接続詞 + 代名詞型」と「挿入型」の2つがあります。「挿入型」は説明の挿入ですから、適当に訳せばOKです。

僕の父は科学者なのですが、今名古屋にいます。  
My father, who is a scientist, is now in Nagoya.

一方「接続詞 + 代名詞型」は、訳出の際に「そして(and)」、「しかし(but)」、「なぜなら(because)」の3つを使い分ける必要があります。

僕は彼女から長い手紙を受け取った、そしてそれを何度も読み返した。  
I received a long letter from her, which I read again and again.  
=I received a long letter from her, and I read it again and again.

僕はその本が好きだ。なぜならきれいな挿絵があるからだ。  
I like this book, which is beautifully illustrated.  
=I like this book because it is beautifully illustrated.

僕は彼女に手紙を書いたのだが、彼女は読まずに送り返してきた。  
I wrote her a letter, which she sent back unopened.  
=I wrote her a letter, but she sent it back unopened.

**見取図**

(1) My own feeling now is that the great majority of people have no interest whatsoever in understanding people of different cultures.

My own feeling now	is	that+文
A	=	B

<文>

the great majority of people	have	no interest whatsoever	in understanding people of different
S	V	O	cultures

\* no A whatsoever = 少しのAもない、Aのカケラもない。noを強調するのが whatsoever で、not at all に対する no whatsoever だと覚えておくとうまい。

\* great majority of A = Aの大部分

\* interest in A = Aに対する興味・関心

\* different A-s = 色んなA、様々なA、別々のA。限定用法の different で名詞が複数形だった場合には「色んな」「様々な」。単数名詞の場合には「異なった」「違った」。

・ different ways of thinking = 色んなモノの考え方

【全訳例】大部分の人々は自分たちとは別の文化圏で暮らす人々を理解することに興味のカケラも持っていないのだ、と言うのが今の私自身の気持ちである。

(2) The language barrier alienates people, and translation does not overcome it, probably because people like the barrier to be there.

The language barrier	alienate	people
S	V	O

and

translation	(doesn't) overcome	it
S	V	O

because

people	like	the barrier	to be there
S	V	O	C

\* alienate = 「遠ざける、疎外する、見放す」、「譲渡する、譲り渡す」

\* 「like O to be C」= 人はOがCであることを好む・望む。「like 人 to do = 人に~して欲しい」と区別すること。

【全訳例】言葉の壁が人々を遠ざけ、翻訳は言葉の壁を踏み越えられない。なぜなら人は言葉の壁が存在することを望むからだ。

(3) Human beings are lazy animals; the majority of them dislike thinking about anything.

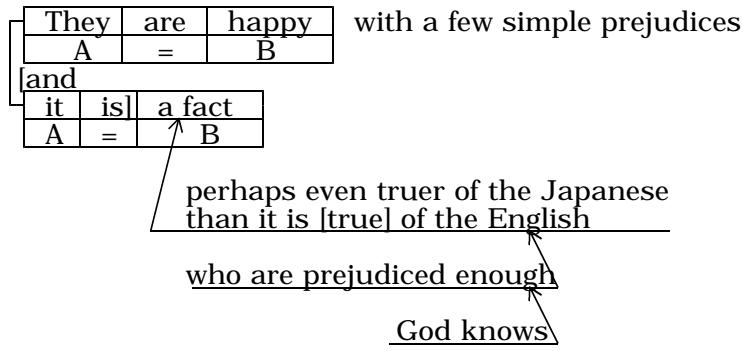
Human beings	are	lazy animals
A	=	B

the majority of them	dislike	thinking about anything
S	V	O

\* think about A = Aを熟慮する

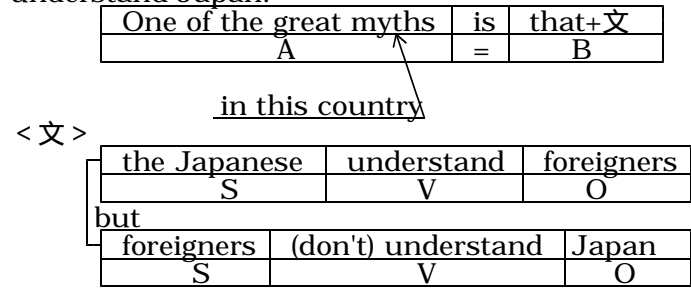
【全訳例】人間は怠慢な生き物だ。その大部分が何かをじっくり考えるのを嫌う。

(4) They are happy with a few simple prejudices, **[which is]** a fact perhaps even truer of the Japanese than it is of the English, who are prejudiced enough, God knows.



- \* 人 is happy with A = 人はAに満足している、Aを喜んでいる
  - \* A is true of B. = AはBに当てはまる
  - \* 比較級を強める even で「さらに、なおさら、いっそう」。
  - \* 関係代名詞 + be 動詞の省略に注意。先行詞は前文全部。【ポイント】参照のこと。
  - \* 人 is prejudiced = 人は偏見を持っている、Aは先入観を持っている、Aは不公平である。
  - \* 非制限用法の関係詞は「接続詞 + 代名詞型」「挿入型」の2つ。は「そして」「しかし」「なぜなら」の接続詞を補ってつなげる。一方、は「～なのだが・・・」として差し挟んでやる。ここでは
  - \* God knows には「神のみぞ知る・誰も知らない」と「間違いない・確実である」の2つの意味がある。
- 【全訳例】(だから)人間は多少偏見の目で見ること満足している。イギリス人が十分に偏見を持っていることは間違いのないことなのだが、このことはおそらくそのイギリス人よりもなおさらに日本人に当てはまる事実だ。

(5) One of the great myths in this country is that the Japanese understand foreigners, but foreigners don't understand Japan.



- \* this country = Japan
  - \* myth = 偏見に満ちた作り話。ここでは「神話」や「伝説」はおかしい。
- 【全訳例】日本にあるひどい偏見に満ちた作り話の1つに次のようなものがある。それは「日本人は外人を理解できるが、外人は日本のことが分からない」というものだ。